

青年部会 韓国視察研修会を実施

青年部会は7月10日～7月13日の日程で韓国の社団法人韓国ガス専門検査機関等を訪問しました。韓国視察研修を次の通り報告します。

参加者 長岡伸剛(長岡工業(株))、白砂伸之(大静高圧(株))、白石潔(東白商事(株))、鈴木修平(日東高圧(株))、山田拓也(九州高圧(株))、森光太郎(株宇都宮プロパン容器検査工場)、寺田賢一郎(大同興業(株))、小野田尊(株小野田商店)、荒畑誠顧問 以上9名 (敬称略)

韓国視察研修報告書

視察目的：日韓の容器検査の規定・実務内容を相互に理解し、両国のガス容器検査の技術的発展につなげるため、専門機関との面談・実務企業の訪問を行うもの

1 件目訪問先 社団法人韓国ガス専門検査機関協会

住 所：ソウル市江南区南部循環路3183 韓国ガス安全公社3階

訪問目的：高圧ガス容器再検査に関する法律の相互理解

面 談 者：ハンサンウォン会長・キムジョンジュン前会長・キムサンソプ専務理事
キムチョンギョン理事・イギョル理事・キムジュンホ課長
イセナ韓国ガス安全公社部長（通訳）

取 材 社：株式会社韓国ガス新聞社 取材部部長キムジェヒョン

内 容：韓国ガス専門検査機関協会の設立目的・沿革について
韓国国内における高圧ガス容器再検査の実情

日本との容器再検査実務の違いについて質疑応答 ※質疑応答内容は別紙

所 見：韓国はガス事業を国家が管理していたことから、日本よりも協会と公的機関との関係は密接に感じる。協会は民間交流、安全管理、検査技術開発を柱とする。
目先の課題としては、容器検査の自動化を促進がある。

日本の技術の方がより進んでいると認識しており、今後も定期的に技術交流が必要と感じている。

※2023年9～10月に日本に技術交流に来たいと依頼を受ける。

差異はあるものの韓国の容器再検査は日本と類似しており、特に溶接容器は20年を超えても再検査され続けていることから、溶接容器の使用限度についての知見を得ることができ、日本国内の容器の継続使用促進につながる可能性がある。



2件目訪問先 ファインシルテック株式会社 (Fine Cyl Tec)

住 所：京畿道広州市昆池岩邑京忠大路784-82

訪問目的：一般高圧ガス容器再検査に関する実務の見学

面 談 者：キムチョンギョン社長（韓国ガス専門検査機関協会理事）

内 容：ファインシルテックの沿革について

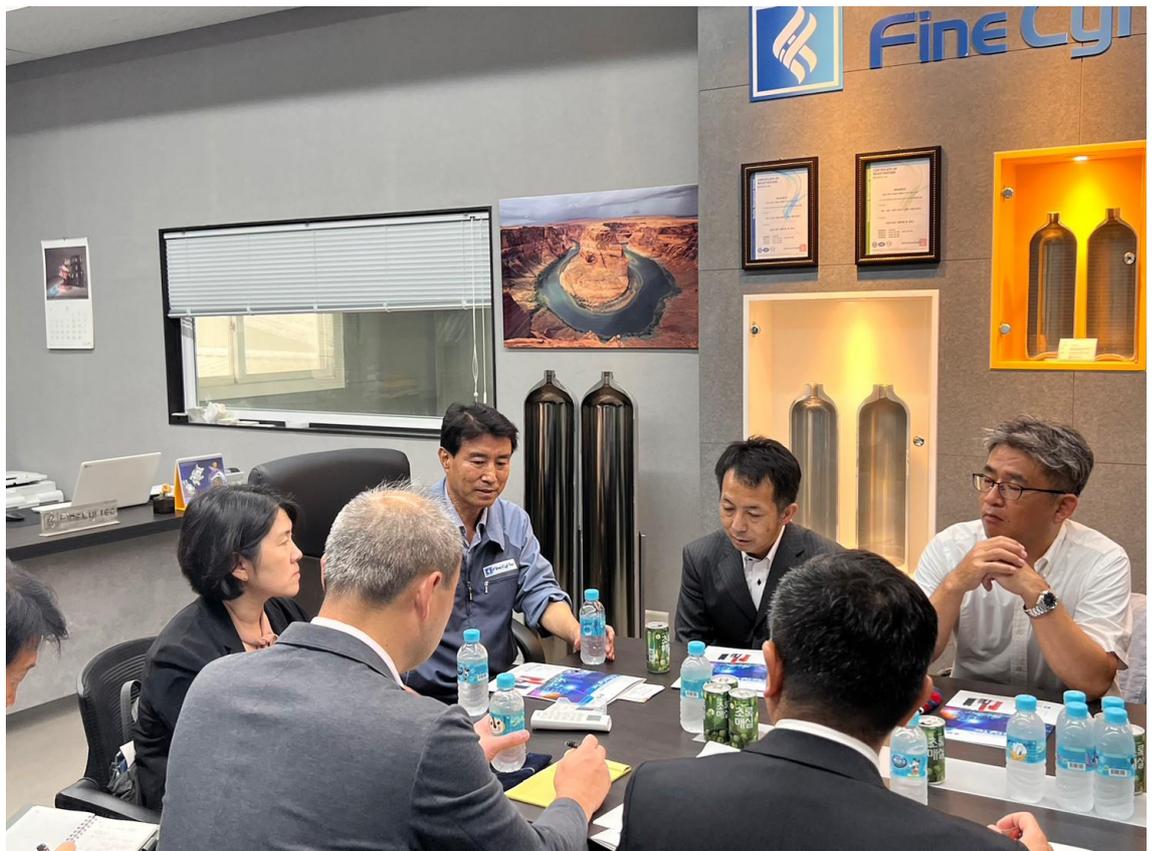
工場見学 ※主たる業務はバレルによる半導体用ガス容器の内部研磨

質疑応答 ※内容は別紙

所 見：容器内部のバレル研磨についての設備開発を行っており、複数の特許を保有しているため、設備はすべて自前で作成しているため価格競争力が高い。

容器再検査も行っているが、メイン事業はバレル研磨であり、日本からも研磨依頼が来ていることから、技術提携を行うなど容器再検査とは違った事業を模索している事業者は発展的関係を築いていける可能性がある。

半導体関連ガス容器も再検査しており、設備投資意欲も旺盛であるため、半導体関連ガス事業者の技術発展も期待できる。



3 件目訪問先 中央産業株式会社

住 所：忠清北道忠州市金峰大路605

訪問目的：溶接容器再検査に関する実務の見学

面 談 者：キムジョンジュン会長（韓国ガス専門検査機関協会前会長）

キムボンテ副社長（上記会長の息子、事業承継者）

ジョンテッボムチームリーダー

内 容：中央産業の事業内容について

工場見学 ※容器再検査工場のみ

質疑応答 ※内容は別紙

所 見：検査機器は3列に配置されており、検査後ショットブラスト・塗装と流れる一般的なものであるが、搬送は人力とコンベヤーを併用している。粉体塗装後、充填期限のみをシルク印刷のような機器で印字。印字後、内部にエアーを充填し一定時間水没させ、漏れ検査を行っている点が日本の検査工程とは異なっている。

所有者の吹付は、50キロは再検査場で行うが、20キロはガス販売業者の充填所にて行っている。韓国では所有権がはっきりしていないため吹き付けできないとのこと。

所有権者がはっきりしていないことで、新容器購入の動機が薄く、容器が再検査を合格し続ける限り、長期間容器が使用されている。容器検査は日本の方法と類似しているため、20年経過後の容器耐用年数を調査するうえでは、韓国の容器再検査と提携してデータをとることで、20年経過後容器の継続使用についての実地情報を得られると考えられる。

